

トンネルの戦い——。 TUNNEL WARFARE

008

文/鈴木健太郎 Illustration/M. Kelly

Cover Illustrations Source/
Jarrelook Co UK & National
Museum of US Army
Cover Photos/Israeli Defence Forces,
US Army, & Shutterstock.com
© WORLD PHOTO PRESS 2024
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

004 第66回 **サイゴン物語 Saigon Memories**
MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[15]

制圧こそ使命! 戦闘ショットガン

032 **COMBAT SHOTGUN**

レミントン M870 Remington Model 870

モスバーグ 500 Mossberg 500

ベネリ M4 Benelli M4

Report by Ken Nozawa 図版解説/鈴木健太郎

054 **ベトナムを遠く離れて——。**

俺のUZI作製記の巻! 文/小倉 徹

056 **SHOT SHOW 2024**

●Report by Muneki Samejima

066 **ウェスタンアームズ新製品レポート**

Report by SHOTGUN MARCY

●ウィルソン・コンバット キャリー・コンブ

070 **タナカ・ワークス新製品レポート**

Report by SHOTGUN MARCY

●S&W M28

“ザ・ハイウェイ・パトロールマン” 4インチHW

●デザート・イーグル.50AE

“ウォーム・シルバー・コーティング” HW &

“ブライト・ゴールド・コーティング” HW

074 **トイガンニュース**

ウェスタン アームズ

●ベレッタM84FS サイレンサー・モデル

タナカ・ワークス

●S&W M29 クラシック8-3/8インチ HW Ver.3

076 **Militaria Roundup!**

U.S.NAVYユニフォーム Part 4



084 **東京マルイ**

電動ガン+シリーズ第3弾「G36C PLUS+」

&

ガスブローバック・ハンドガン「White D.O.R」

091 **THE グリーンベレー GREEN BERET**

特殊部隊CIF中隊特集 Part4 解説/DJちゅう

ニッポンのちからこぶ 写真・文/菊池雅之

096 **05JX** 令和5年度
自衛隊統合演習【後編】

100 **新製品情報 COMBAT mono**

ボスゲリラ不屈のトイガン魂!

102 **サバゲ・マスカラ・コントラ・マスカラ!**

104 **サバゲ三等兵APS部**

マルゼンAPS-1 グランドマスターMk.Ⅲ

COMBAT FRONT LINE

107 **今月の中田焦点!**
日本海軍航空隊レプリカ 海軍航空隊 腕時計 大文字盤

108 **新作映画情報「DOGMAN ドッグマン」**
「落下の解剖学」「犯罪都市 NO WAY OUT」

106 **レアミリタリーテクノロジー**

109 **読者プレゼント & CIC**

110 **バックナンバー**

111 **次号予告&奥付**



ミリタリースポッター

Constructed of concrete and steel, this bridge spans a canal flowing through Can Tho, the central city of the sprawling Mekong Delta in southern Vietnam.

Locally, it is referred to as the“Bridge of Filial Piety.” It earned this name because a successful son built it to allow his elderly parents to safely cross and go shopping at the market. Before its construction, there used to be a Monkey Bridge — a structure made of thin bamboo poles, mangrove roots, and ropes — that was well-known even among American soldiers during the Vietnam War. Few lament the disappearance of the Monkey Bridge, except perhaps thrill-seeking tourists.

コンクリートと鋼でできたこの橋は、南ベトナムに広がるメコンデルタの中心都市のカントーを流れる運河に架かっている。地元では、「親孝行橋」と呼ばれている。年老いた親が安全に橋を渡り市場に買物に行けるようにと、事業で成功した息子が架けた橋だからだ。それまではモンキーブリッジが架かっていた。細い竹の棒とマングローブの根とロープでできた橋は、ベトナム戦争中の米兵たちの間でもよく知られていた。モンキーブリッジが消えたことを残念がる人は、スリルを味わいたい観光客をのぞけば、だれもないはずだ。 Photo/Kesaharu Imai

トンネルでの戦いは「一寸先は闇」という言葉ではとても言い表せないほど危険で、ましてや敵が潜んでいるとなればトンネルというより「地獄への最短ルート」と呼んだ方が適切であろう。闇に包まれたこの地獄で生き残るには、先人たちが残した教訓と最新のテクノロジーが欠かせない。当事者以外にはほとんど知られることのない文字通り“アンダーグラウンドの戦い”に、スポットライトを当ててみる。

文/鈴木健太郎
Photo/U.S.ARMY, USMC, Library of Congress, Imperial War Museum, Israeli Defence Forces Sporks person's Unit, WPP archive, Kesaharu Imai, Shutterstock
Illustration/M. Kelly
Source/Jarrelook Co UK

一強大な相手と戦わなくてはならないとき、真正面からの攻撃が無意味なことは誰にでも分かる。かといって籠城戦に持ち込むのも兵糧攻めに遭うのは目に見えている。ならば密かに地下に潜り込んで、都合の良い時だけ戦えば良いではないか。トンネルや地下壕を用いた戦いは理屈としてはさほど難しくはないが、実践するのはかなりの時間と労力が必要で、この戦いに従事する者たちは「戦うために穴を掘る」のではなく「穴を掘るために戦っているのではないか」と錯覚してしまうほどだ。しかしこれらの設備をひとたび我が物とすれば敵にその何倍もの労苦を与えることができるため、戦線が大

きく変化する戦いでなければやってみる価値は十二分にある。地下壕あるいはトンネルが活用された戦いといえば第一次世界大戦やベトナム戦争がすぐに思い浮かぶが、太平洋戦争時の日本軍、朝鮮戦争における北朝鮮軍、さらには今日激しい戦火に包まれている中東の武装勢力にも組織的に用いられ、大きな効果を挙げている。アメリカ軍はこれらのほぼ全ての戦いにおいて地下で待ち受ける敵と相まみえた経験があり、この種の戦いに関する膨大なデータとノウハウを集約したマニュアルを作るとともに兵士たちが地下の戦いでも主導権を握れるように日夜訓練を続けている。

トンネルの戦い

TUNNEL WARFARE

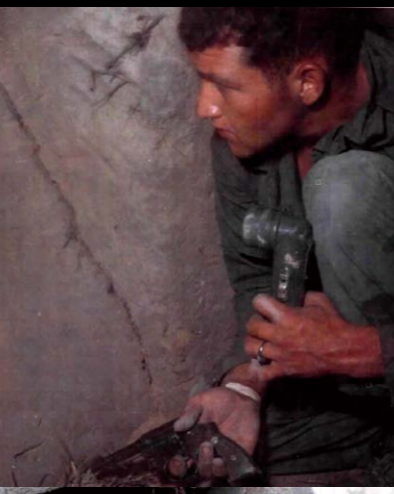
TUNNEL WARFARE

トンネルねずみ

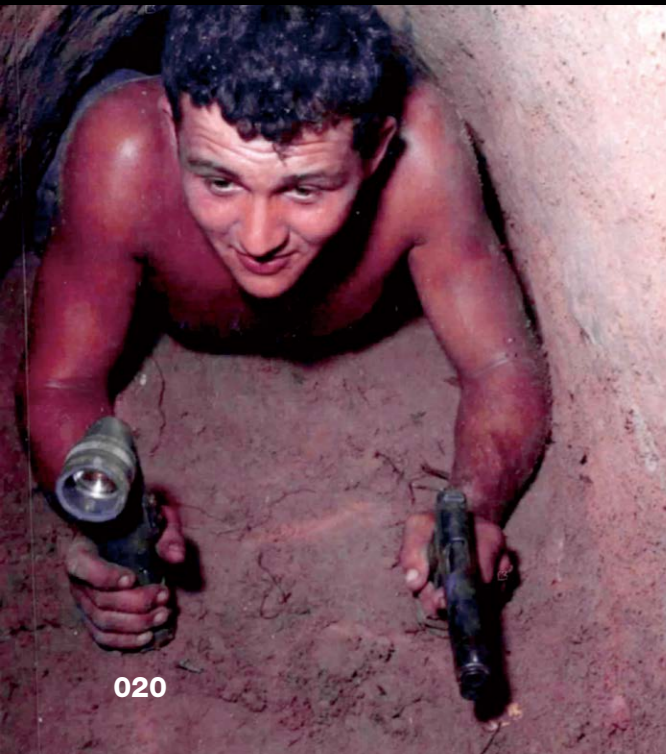
解放戦線によって張り巡らされたトンネルの探索は歩兵部隊が負うべき任務の範疇を大きく超えており、探索チームの編成と個人への訓練には土木や建築、爆発物に関して豊富な知識を持つ工兵部隊

や催涙ガスの取り扱いに長けた化学部隊からも兵士を抽出しなければならなかった。トンネル探索を専門とする兵士たちは「トンネルねずみ」と呼ばれ、任務の特性上明らかに身体の小さい者が向いていたために普段は見下されがちな多くの小柄な兵士がトンネルねずみとして目覚

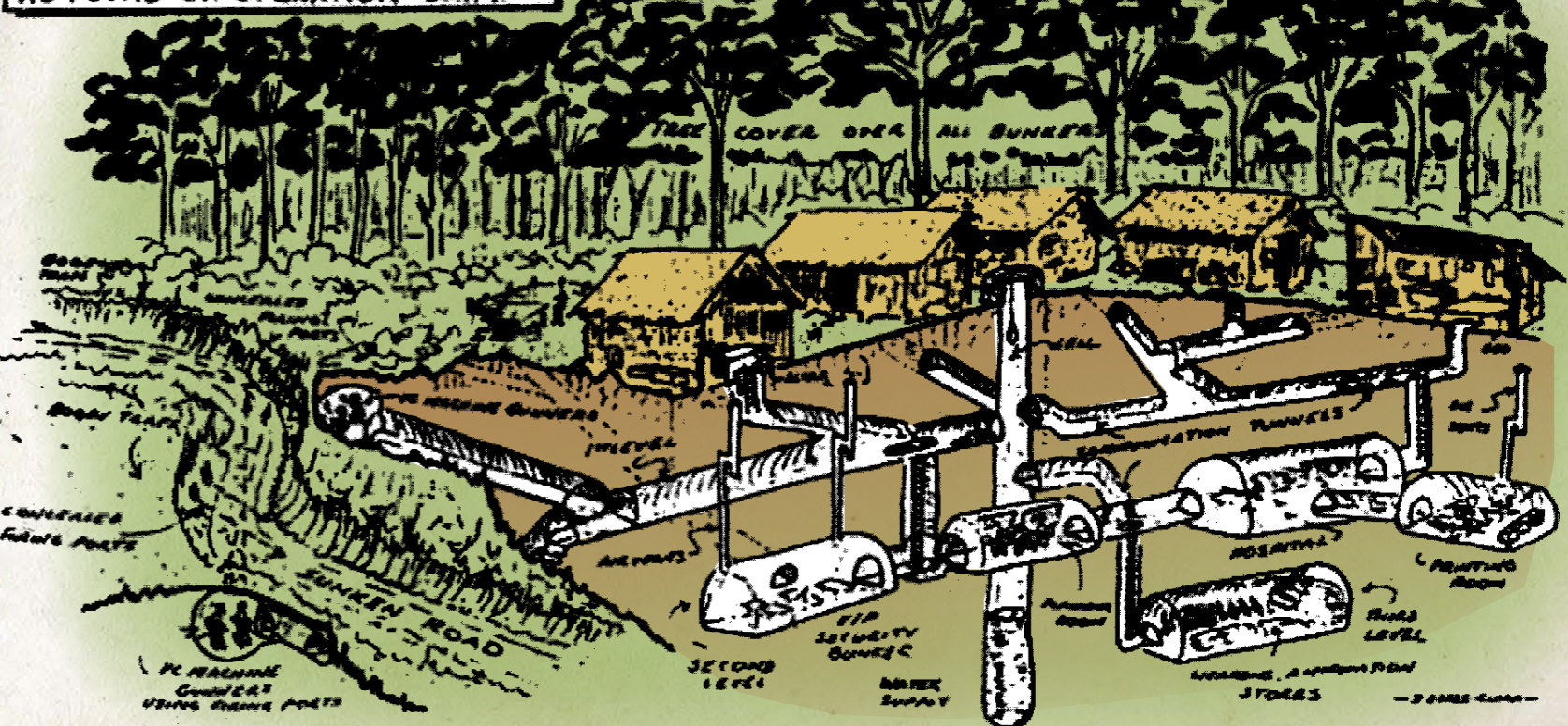
ましい働きを見せたのだが、彼らの任務はあまりにも危険で周囲からは多くの賞賛の声が上がった一方、一部の兵士には「自殺志願者の集まり」としか映らなかった。アメリカ軍ではトンネルねずみのためにスポットライトとサイレンサーを付けた38口径リボルバーやパイストイッ



解放戦線のトンネル探索を捉えた写真の数々。ヘルメットを被っているのはトンネルを発見した一般の兵士で、無帽でフラッシュライトを手にしているのが「トンネルねずみ」である。トンネルねずみは1チームが主に3〜5人で構成されており、ほとんどのトンネルねずみが身長165cm以下だったが大柄の者もない訳ではなかった。トンネルを巡る戦いでの注意点はトンネルねずみや当時のレポートによるとトンネルを発見しても安全を確保するまでは中を覗き込まないこと（トンネルを発見した兵士が不用意に顔を覗かせて敵に撃たれる事例が実際に多発している）、トンネルの出入り口を探すために発煙手榴弾を使用しないこと（トンネルねずみの探索の妨げとなる）、発砲する際は短時間に何発も撃たないこと（敵に弾切れのタイミングを悟られる危険がある）などがあるが、最も大事な注意点は地上の戦いと同じく「触るべきものと触ってはならないもの」を決して間違えないこと」で、トンネルには地上で見かけるのと同じビービートラップに加え敵が通りそうな所には毒ヘビがくり付けられるなど、命取りとなる仕掛けがいくつもあった。



TYPICAL VIET CONG BUNKER COMPLEX AS FOUND ON OPERATION 'CRIMP'

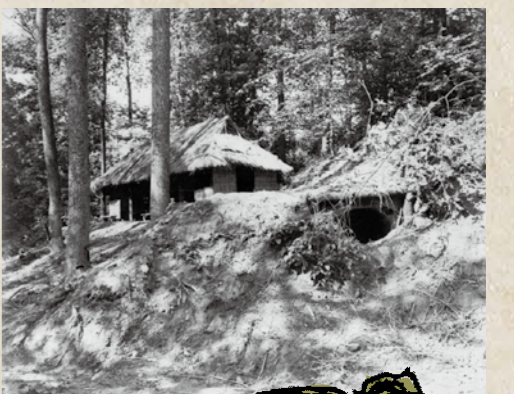


THE EARTH 'SPONGE' FROM DIGGING THE BUNKERS WAS SPREAD UNDERNEATH THE NEARBY TREES. GROUND LEVEL FIRING TRENCHES WERE WELL CAMOUFLAGED AND SURROUNDED THE COMPLEX.

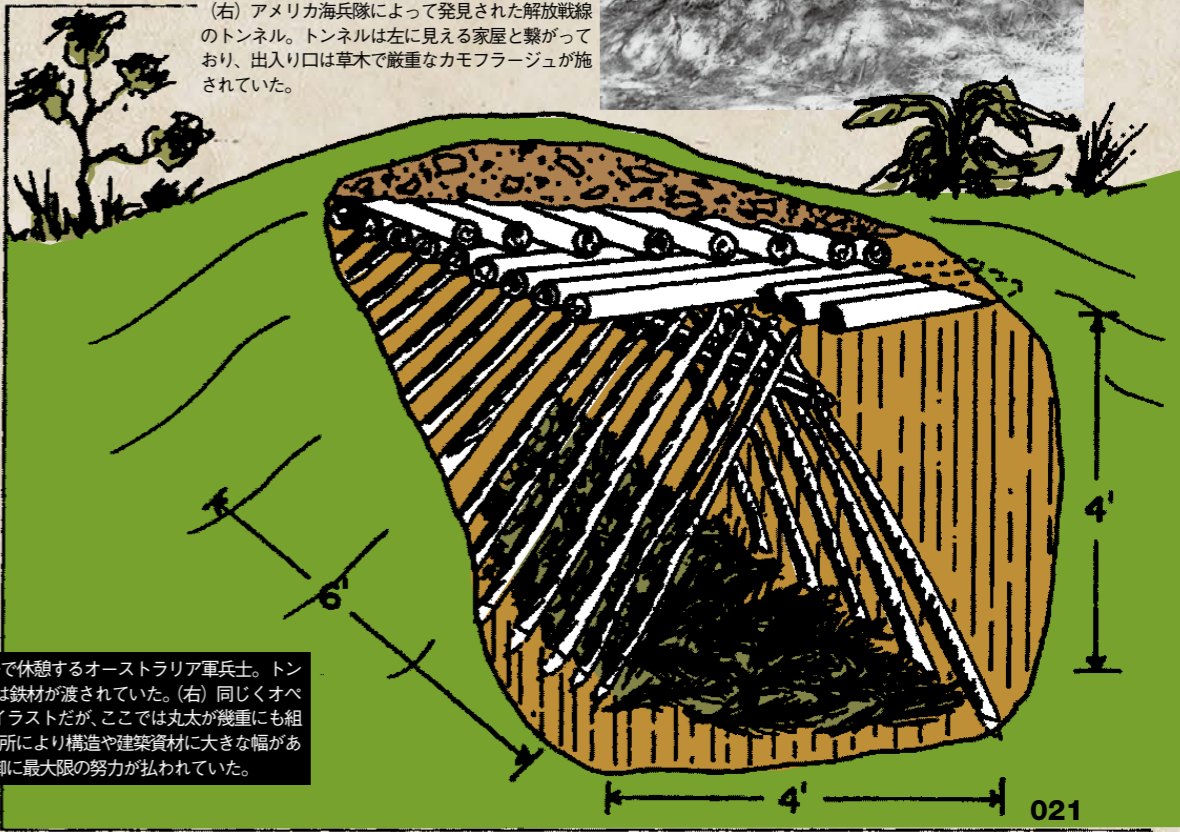
NOT SHOWN ARE THE GENERATOR POWER PLANT AND MAIN BUNKERS. GROUND LEVEL BUNKERS OR BARRACKS ROOMS

チ（噛むことでON/OFFが切り替わるスイッチ）を備えたヘッドランプなどで構成された探索キットを用意したのだが使用例はそれほど多くなく、ほとんどのトンネルねずみが自前の拳銃、フラッシュライト、ナイフまたは銃剣で任務にあたり、場合によってはガスマスクを着用し切り詰めたショットガンやM2カービンで武装する場合もあった。トンネルねず

みは地下での戦いのプロフェッショナルだったにも関わらずMOSと呼ばれる軍事特技区分が与えられなかったのだが、独自にねずみをアレンジしたパッチをデザインしており、パッチには正規の部隊章を真似てラテン語のモットーまで記されていた。



(右) アメリカ海兵隊によって発見された解放戦線のトンネル。トンネルは左に見える家屋と繋がっており、出入り口は草木で厳重なカモフラージュが施されていた。



(上) オペレーションクリンプで発見されたトンネルで休憩するオーストラリア軍兵士。トンネルの一部は壁面がコンクリートで作られ、地面には鉄材が渡されていた。(右) 同じくオペレーションクリンプで発見されたトンネルを描いたイラストだが、ここでは丸太が機重にも組み合されている。この作戦で発見されたトンネルは場所により構造や建築資材に大きな幅があったが、どこであっても砲撃を想定して頭上の防御に最大限の努力が払われていた。

制圧こそ使命! 戦闘ショットガン

COMBAT SHOTGUN

レミントン M870

モスバーグ 500

ベネリ M4

Remington Model 870

Mossberg 500

Benelli M4

接近戦では弾が相手に当たったかどうか、
当たった弾が相手に十分なダメージを
与えたかを確認している暇はない。
しかし一撃で拳銃弾の何倍もの攻撃範囲を持つ
ショットガンであればその心配はほとんど要らない。
至近距離で敵に有無を言わせない力が必要なときは、
ショットガンを持つに限る。

Report by KEN NOZAWA

図版解説 / 鈴木健太郎
Photo/U.S.ARMY, U.S.NAVY, USAF, USMC, WPP Archive

レミントンM870の改修型、マーク1ショットガン。このショットガンは海兵隊の要請を受けて21インチの銃身を持つM870にマガジントリプルの延長、着剣装置の追加などの手を加えた純然たるコンバットショットガンで、1969年に採用された。M870の装弾数は通常は4発だが、マーク1は7発と大幅に増えている。

COMBAT SHOTGUN Remington Model 870/Mossberg 500/Benelli M4

ヤード)の距離まで効果を発揮する。

ショットガンは複数の弾丸を同時に発射できることから短距離用武器の中で最も効果的であり、命中確率はサブマシンガン(5発バースト)より45%高く、アサルトライフル(3発バースト)の2倍である。バックショットの各ベレットは小口径のハンドガン弾とほぼ同じ効果(威力)があり、装甲目標に対する貫通力は低いものの対人用に極めて有効であるとされる。

ちなみに、ベレットが大きくなるほど一度に発射されるベレットの数は減り、命中確率が低くなるため、1970年代までは暴徒鎮圧といえは00バックショット(直径約8.4mmベレット9個弾)が標準だったが、1980年代に入りFBIを初めとした法執行機関での使用弾は、ベレット24個弾が増えている。

●コンバット・ショットガンの使用弾薬

ミリタリーであろうと法執行機関であろうと、コンバット・ショットガンで使用される

最も一般的な弾薬は00バックショットで、それは全長70mmの12ゲージ実包であり、直径約8.4mmの鉛弾を9個含んでいる。バックショットは至近距離で非装甲の目標に対して絶大な効果を発揮する設計である。現在、軍用コンバット・ショットガンで使用されている弾薬にブリーチング弾がある。ブリーチング弾はドアや壁などの堅固な物体を破壊するために設計された特別な弾薬であり、被弾時に粉末状の金属またはセラミックに変化することでドアや壁に大きな穴を開け侵入を容易にするという働きを持っている。

またスラッグ弾だが、一般的な市販の物は衝撃で変形する傾向があり、1899年のハーグ条約で違法となっているため、ミリタリーではジャケット付き、またはサボ加工されたスラッグが使用される場合が増えている。

致死性の低いビーンバグ弾やゴム弾は法

執行機関でもミリタリーでも使用されているが、それらは安全に暴徒を阻止・鎮圧するために効果的である。

米軍は現在、炸裂弾やスタンドオフブリーチング弾(ショットガンで使用されるブリーチング弾の一種。「スタンドオフ」とは弾丸とドアの間に一定の距離を保つための装置のことで、ドアの反対側にいる人を傷つけるリスクを軽減している)などの実験弾の開発とテストを行っており、これによりコンバット・ショットガンの射程と柔軟性がさらに向上する可能性がある。

●コンバット・ショットガンの機能違いによるメリット・デメリット

コンバット・ショットガンには、ポンプア

クション式とセミオートマチック式の2種がある。SPAS-12、SPAS-15、及びベネリM3ショットガンは、それら2つの操作方式(作動方式)が選べる機種であり、用途に合わせての使い分けが可能だ。

セミオートマチック式ショットガンの利点は片手での射撃が可能で、伏せた状態でも安定した素早い射撃が行なえることにある。対してポンプアクション式の利点は様々な種類の実包を使用できることで、セミオートマチック式ショットガンでは安定作動が難しい低圧のゴム弾、ビーンバグ弾などでも問題なく発射することができる。また、ポンプアクション式ショットガンはドア突破でも有利とされている。ドアを突破した後、

ショットガンはすぐに落とされ(スリングで保持され)、別の武器に持ち換えるが、その際、業室内に次弾を装填せず、空に保てるからである。

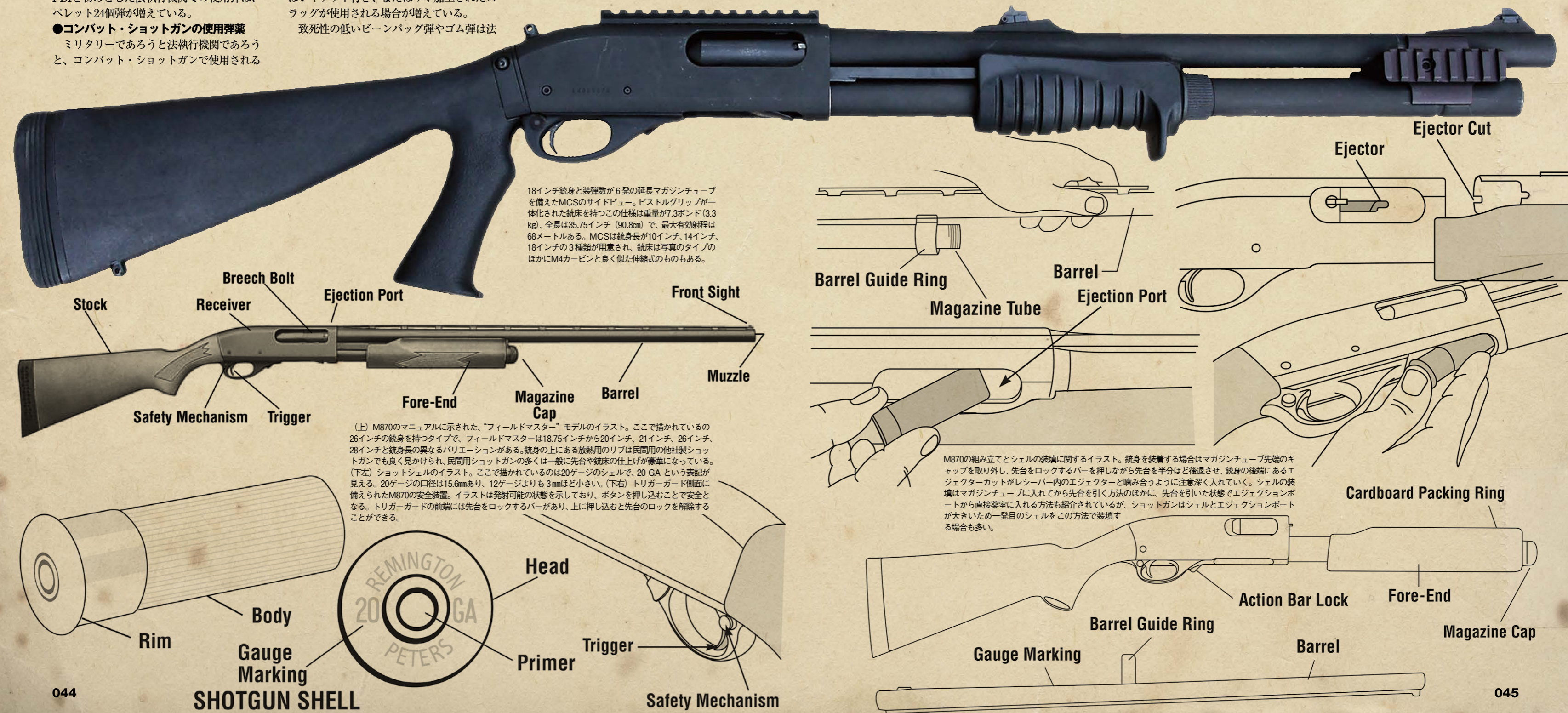
歴史に残るコンバット・ショットガンたち それぞれに個性と実力を持った時代の代表者

ショットガンの歴史。そしてコンバット・ショットガンの立ち居地が確認できたところで、現代において代表とも言えるコンバット・ショットガン三機種を紹介したい。レミントンM870、モスバーグ500、ベネリM4の三機種である。

●レミントンM870

レミントンM870はレミントン・アームズ社が製造するポンプアクション式ショットガンで、射撃競技、狩猟、自衛、警察や軍隊組織で幅広く使用されているが、M870の完成前には4種類のポンプアクション式ショットガンが存在した。レミントンM10、M17、M29、そしてM31である。中でもM31は好評ではあったが、手仕上げの部品が多く製造コストが上がり、ウィンチェスターM12との販売競争で苦戦したことから状況を改善すべく開発されたのが、1950年に完成したレミントンM870である。M870の長所はいくつもあるが、

- ①近代的で信頼性の高い構造
- ②分解とメンテナンスが容易



18インチ銃身と装弾数が6発の延長マガジントラップを備えたMCSのサイドビュー。ピストルグリップが一体化された銃床を持つこの仕様は重量が7.3ポンド(3.3kg)、全長は35.75インチ(90.8cm)で、最大有効射程は68メートルある。MCSは銃身長が10インチ、14インチ、18インチの3種類が用意され、銃床は写真のタイプのほかM4カービンと良く似た伸縮式のものもある。

(上) M870のマニュアルに示された、「フィールドマスター」モデルのイラスト。ここで描かれているのは26インチの銃身を持つタイプで、フィールドマスターは18.75インチから20インチ、21インチ、26インチ、28インチと銃身長異なるバリエーションがある。銃身の上にある放熱用のリブは民間用の他社製ショットガンでも良く見かけられ、民間用ショットガンの多くは一般に先台や銃床の仕上げが豪華になっている。(下左) ショットシェルを挿入するイラスト。ここで描かれているのは20ゲージのシェルで、20 GA という表記が見える。20ゲージの口径は15.6mmあり、12ゲージよりも3mmほど小さい。(下右) トリガーガード側に備えられたM870の安全装置。イラストは発射可能な状態を示しており、ボタンを押し込むことで安全となる。トリガーガードの前端には先台をロックするバーがあり、上に押し込むと先台のロックを解除することができる。

M870の組み立てとシェルの装填に関するイラスト。銃身を装着する場合はマガジントラップ先端のキャップを取り外し、先台をロックするバーを押しながら先台を半分ほど後退させ、銃身の後端にあるエジェクターカットがレシーバー内のエジェクターと噛み合うように注意深く入れていく。シェルの装填はマガジントラップに入れてから先台を引く方法のほかに、先台を引いた状態でエジェクションポートから直接薬室に入れる方法も紹介されているが、ショットガンはシェルとエジェクションポートが大きい一発目のシェルをこの方法で装填する場合も多い。

ALL EXHIBIT HALLS
MAIN REGISTRATION



EXPRESS REGISTRATION
WITH BARCODE



SHOT SHOW 2024

056 Report by Muneki Samejima

2024年もショット・ショーのシーズンを迎えた。世界最大の銃器見本市として、1979年に始まり、開催地は全米各地を転々としていたが、2009年のフロリダでの開催を最後に2010年からはラスベガスでの開催がずっと続いており、今ではすっかり「ショット・ショーといえばラスベガス」というイメージが定着した。

僕は2012年から参加しており、気が付けば今年が13回目のショット・ショーとなった。これだけ参加していると、各企業のブースの位置が何となく頭に入っているのだが、今年は各社のブースの位置がシャッフルされた印象で、例年とは少し雰囲気も異なっていた。2022年から新会場となるシザーズ・フォーラムが追加され、会場が広くなっ

たことで「人混みでごった返して移動するのもひと苦労」ということはなくなった。今年の出場者数は55,000人ということだが、コロナ禍前は60,000人程度だった。恐らく、大企業であるSIG社などが2022年からショット・ショーへ出展を取りやめた事の影響もあるのかもしれない。ショット・ショーは、アフター・コロナの新しい姿になったわけだ。

今年の印象として「これは！」と思うような新製品は減ったものの、メインフロアにエアソフトガン、各種シミュレーター関連の企業が進出するなど、過去にはなかった光景が目についた。また会場で日本人の姿を見かけることも多かった気がする。

では、新製品を中心に2024年のショット・ショーの様子をお伝えしていこう。

ショット・ショーのメインフロアのベネチアン/パラッツォ側の会場へ向かう通路は僕がいつも通るルートだ。ここへ来ると今年もショット・ショーに来たと実感する。

NO SHOT SPHERE ACCESS

WILSON COMBAT CARRY COMP

M1911コンシールド・モデルに
レース・カスタムのテクノロジーを反映させた
ディフェンシブ.45カスタム!

WESTERN ARMS

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
ウエスタン アームズ 03-3407-5922
http://www.wa-gunnet.co.jp



メタル・チャンバーカバーは
独特の書体で刻まれたウィル
ソン専用タイプ。

スタンダードなコ
マンダーとオフィ
サーズACPの中
間に位置する4イ
ンチ・サイズのバ
レル先端にレー
ス・テクノロジー
をプラスした
M1911コンシールド・カスタム、キ
ャリー・コンプ。ハ
イクオリティな
M1911クローンを
製作するウィル
ソン・コンバットの
ストリートファイト・カスタムだ。

M1911クローンの製作が盛んになる1990年代以前、ハイクオリティなM1911製作で鎗を削っていた、ウィルソン・コンバットとスプリングフィールド・アーモリー。アメリカはもちろん、日本のファンにとっても、常に憧れの目を向けられてきた銃器ファクトリーだ。これらふたつのブランドから、数々の人気モデルを選び出し、マグナムモデルとしてラインナップしてきたウエスタン アームズ(以下、WA)が、今月ウィルソン・コンバットの高性能コンパクト・

った。
全米で開催されるシューティング・レースに使用されるカスタム.45の製作で評価を高めたウィルソン・コンバットは、1996年に完全自社製作のM1911クローンの製作を始め、同時にアメリカ合衆国司法省内の法執行機関アルコール・タバコ・火器・爆発物取締局(=ATF、またはBATF、BATFE)などにウィルソン・コンバットのM1911CQBが制式採用さ



サブ・コンパクト・サイズのグリップ・フレームに、ノン・スリップ効果の高いストーン・フィニッシュを施した金属製ヘビー・グリップをセット。フロント・ストラップのチェッカーとウィルソン・タイプのバンパー付きマガジンが、安定したグリップングを提供する。

カスタム“キャリー・コンプ”を発売する。
ウィルソン・コンバットは、時計職人だったビル・ウィルソンが、自らの趣味でもあった銃器のカスタム・アップを始めたことからスタートしている。当初は、既存のカスタム・パーツを組み込むカスタム・ショップとして活動していたが、レース・シューターの間でその評判が高まり、1983年頃からオリジナルのカスタム・パーツを製作してM1911をカスタム・アップするメーカーとな

れた。2000年代に入ると、ケン・ハッカーソン、ラリー・ヴィッカーズなど、日本でも著名なタクティカル・インストラクターに愛用され、米デルタフォース、ネイビー・シールズなどでも装備されているといわれるハイクオリティなM1911クローンを製作するトップ・メーカーとなり、現在も活躍を続けている。
今月WAが発売するウィルソン・コンバットの“キャリー・コンプ”は、高度なスピード・シューティン

グリップ・フレームに固定されたアルミ製のコンベンセイターは、約15mmのショート・サイズ。コンシールド性を確保しながら、全体のバランスを考慮したサイズ設定だ。





TANAKA WORKS

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
©タナカ・ワークス
https://www.tanaka-works.com

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様が異なる場合があります。

S&W M28 “The Highway Patrolman” 4inch Heavy Weight *and* Desert Eagle .50AE “Bright Gold Coating” “Warm Silver Coating” Heavy Weight

ガンフリークを熱狂させたハンドガンを追力いっぱい再現したタナカ・ワークスのモデルガン!



S&W M28 “The Highway Patrolman” 4inch Heavy Weight

S&W M28 “ザ・ハイウェイ・パトロールマン” 4インチHW
●全長:235mm
●重量:約750g
(カートリッジ6発含む)
●装弾数:6発
●価格:3万8,280円
●3月中旬発売予定



トリガーは前面にグループを加工したスタンダードなナロー・スタイル。



付属カートリッジは、トイガン用7mmキャップ仕様の.357マグナム6発。シルバーにカラーリングされた弾頭は、いうまでもなくホローポイント・タイプだ。

数多くのS&Wリボルバーをラインナップするタナカ・ワークスから、今月も新製品、M28ハイウェイ・パトロールマンが登場する。

M28は、モデルガンのカラー規制が施行された(1971年10月)直後の1972年に登場した“黒い肌を取り戻した記念すべき樹脂製リボルバー”として、往年のファンに知られている。金属製のハンドガン型モデルガンを黒くカラーリングすることが禁止されたことで、トーン・ダウンを余儀なくされていた映像業界もM28に飛びつき、TVも映画も近代アクションに登場するリボルバーはM28一色という状況。ファンは「ハイパト」のニックネームで、ABS製M28に親しんだ。そのハイパトが、昭和の日本を巻き込んだ一大ブームから半世紀を経て復活。言うまでもなく、外観、アクション、サイズなど、全てにおいて50年の進化を感じさせるハイクオリティなモデルガンとなって登場する。

M28は、.38/.44SWスペシャルを使用する.38/.44ヘビーデューティをベースに開発されたM28(M27)は、マズルまで続くサイト・リップと、テーパー・バレルが大きな特徴だった。

用するハンドエジェクター、ヘビーデューティなどをベースに開発されたM27の廉価版。配備を望む法執行機関の要請で、1954年に大幅なコスト・ダウンを実施したNフレーム・リボルバーだ。M27との大きな違いは、全体の仕上げをブライト・ブルーからブラッシュド・ブルーに変更、サイト・リップ、ブリッジ上面などのチェッカーリング、Kサイト上面のグループなどを廃止し、マット・ブラックにフィニッシュした点などがあげられる。低価格に抑えられたM28は、当時「ハイウェイ・パトロールマン」のモデル

44サイズのシリンダーに.357マグナムを6発装填。各チャンパーの隔壁に余裕があり、十分な強度を保てることから、近年になって装弾数を7発、8発などに増大したバリエーションも登場した。



名で販売され、1957年にモデル28のナンバーが与えられた。タナカの新製品M28は、1954年の変更を忠実に再現した外観。特徴的なテーパー・バレルも高い精度で再現されている。往年のモデルガン・ファン感涙のマグナム・リボルバーだ。

M27の廉価版として登場したM28。全体のフィニッシュと同時に、サイト・リップとブリッジ上面、Kサイト上面などをマット・フィニッシュにして低コスト化を実現した。

S&Wメカを高い精度で再現したタナカ・ワークスのバージョン2を内蔵するM28。S&Wリボルバーらしい正確でスムーズなアクションを提供する。





Militaria Roundup!

U.S. NAVY ユニフォーム Part 4

アメリカ軍は様々なパッチをユニフォームの徽章として使用しており、膨大ともいえる数が存在する。それらパッチはあくまで軍の徽章だが、その中で内容的にバラエティに富み、かつ自由度の高いのが海軍のパッチだ。今回は海軍ユニフォームの中でもカラフルな存在の各種パッチを艦艇と飛行隊章をメインに紹介しよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/MASH/06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>, 中田商店/03-3823-8577 <https://www.nakatashoten.com>, サムズミリタリ屋 <https://www.sams-militariya.com>

アメリカ海軍の艦船

冷戦時代のレーガン政権期(1981~89年)には戦闘艦500隻以上を保有したアメリカ海軍だが、冷戦終結後の軍縮で2020年には約290隻に減少した。現在アメリカ海軍は中国の海軍力増強に対し、戦闘艦を405隻まで増強することを見込んでおり、今後は無人水上艇や潜水艇が多数発注されるという。アメリカ海軍の艦艇は①戦闘艦艇(Combatant Ship/Craft)、②揚陸艦(Amphibious Warfare Ship)、③補助艦艇(Auxiliary Ship)に大別され、①のカテゴリには航空母艦、巡洋艦、駆逐艦、フリゲート、潜水艦、哨戒艦艇等が存在。②の揚陸艦に関しては後述するが、③の補助艦艇には補給艦、輸送艦等が含まれる。また、これらカテゴリのほかには病院船、ミサイル追跡艦、音響測定艦、水上母艦等が存在。さらに河川作戦艇(Riverrine Warfare Craft)や航洋タグボートなど様々な艦種が様々な任務に従事している。

艦種記号と艦番号

アメリカ海軍の各艦船は名前と艦種記号で識別される。現在アメリカ海軍が使用している艦種記号のシステムは1920年に導入されたもので、艦種のイニシャル2文字と艦番号(ハル・ナンバー)で構成される。戦闘艦の艦種記号は“Battle Ship”のイニシャル2文字の“BB”で、これに艦番号が付く(例▶ミズーリ BB-63)。空母の艦種記号は“CV”だが、“V”は艦種のイニシャルではなく飛行機の翼を表す象形文字だが、「飛行」を意味するフランス語の“Voler”から来たとする説も存在。艦種と分類は時代によって変化しており、現在は使用されていないものも存在する。艦番号(ハル・ナンバー)は同じ艦種の建造順に付けられるもので、艦種が異なれば番号が重複しても差し支えない。続き番号の欠番は建造がキャンセルされたことを意味しており、特に戦局が好転した第2次大戦終結直前には、多数のキャンセルが発生している。また艦番号は改修で艦種が変わっても変更されることはない。



アメリカ海軍艦種記号(一部)

BB	戦闘艦
CVN	原子力航空母艦
CG	巡洋艦
DDG	ミサイル駆逐艦
FFG	ミサイル・フリゲート
LCC	揚陸指揮艦
LHA/LHD	強襲揚陸艦
LSD	ドック型揚陸艦
LPD	ドック型輸送揚陸艦
AOE	高速戦闘支援艦
AO	給油艦
AKE	貨物弾薬補給艦

冷戦の終結による軍縮で艦艇数は減少したが、最近の中国海軍の増強をうけ、アメリカ海軍は戦闘艦艇の増強を計画している写真は2016年から就役したズムウォルト級ミサイル駆逐艦のUSSズムウォルト DD-1000で、徹底的なステルス化により従来と全く異なる艦形状となっている。(Photo:U.S. Navy)



ロサンゼルス級は1976年から就役した攻撃型原子力潜水艦で、同型艦62隻が建造されている。SSN-688 ロサンゼルスは同級のネームシップで76年に就役し、2010年に退役している。

シャツの裾裏側に付けられたラベル。“Seafarer(船乗り)”はシーゴイニング・ユニフォーム社のブランド名で、同社は長年海軍にユニフォームを納入してきた実績を持ち、一般向けのデニム衣類でも知られる。



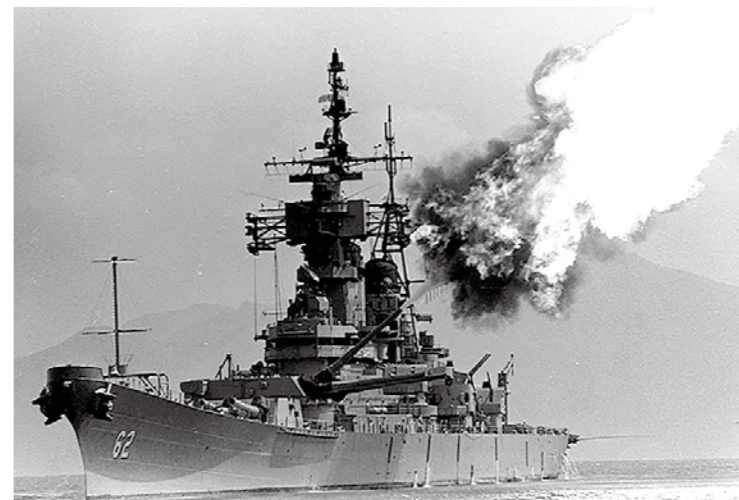
ユニフォームと艦名・艦種記号

艦名と艦種記号および艦番号は各種ユニフォームに表示されることも多い。写真は背中に原子力潜水艦SSN-688ロサンゼルス級の艦名、艦種記号と艦番号をステンシル(型紙刷り)した作業服のユーティリティ・シャツ。ここで紹介するのは1999年製の未使用品。(撮影協力:サムズミリタリ屋/USN 米海軍水兵用ダンガリーシャツ/価格3300円)

布製海軍艦艇章

戦艦 BATTLE SHIP

第2次大戦までは国の威信を示す存在で、海軍の主力だった戦艦だが、第2次大戦では航空戦力が優勢となったため、軍艦同士の海戦が展開されることはなかった。戦後に各国海軍は戦艦を退役させたが、アメリカ海軍はアイオワ級戦艦4隻を現役として運用。朝鮮戦争とベトナム戦争で艦砲射撃による地上部隊支援に威力を発揮した。その後予備役となったが、80年代のレーガン政権下で全艦が近代改修を受けて現役に復帰。湾岸戦争ではミズーリとウイスコンシンが派遣され、対地攻撃任務に従事している。90年から92年に全艦が退役し、2006年に最後の2隻が除籍されてアメリカ海軍における戦艦は消滅した。



1969年ベトナム沖合で北ベトナム軍拠点に対し16in砲による艦砲射撃を実施する戦艦ニュージャージー。91年に退役し、現在は博物館として一般公開されている。アイオワ級戦艦は全部で4隻建造され、91年までに全艦が退役した。(Photo:U.S. Navy)



USSニュージャージー BB-62 戦艦ニュージャージーはアイオワ級の2番艦として建造され、1943年に就役。太平洋戦争ではマリアナ諸島、フィリピン、沖縄攻略に参加。その後朝鮮戦争とベトナム戦争に従軍。そしてレバノン内戦にも派遣されている。(撮影協力:MASH/03-74-0180 U.S. NAVY スコードロン・パッチ BB-62 USS NEW JERSEY/価格1650円)

航空母艦 AIRCRAFT CARRIER

アメリカ海軍の大戦中における空母は艦隊用(CV)と護衛用(CVE等)の2種類で、艦隊用空母には大型空母(CVB)と軽空母(CVL)の種別が加わった。戦後に護衛空母は退役し、一部は強襲揚陸艦(LPH)に変更され1970年代まで運用。また旧式化した艦隊空母は対潜空母(CVS)や訓練空母(CVT)等に種別変更され、順次退役している。戦後は攻撃空母(CVA)と原子力攻撃空母(CVAN)が登場するが、1970年代にCVSが退役するとCVAとCVANは対潜任務も担当することになった。このため艦種記号もCVAがCV、CVANがCVNへと改められている。



1971年ベトナム海域で作戦行動中のUSSミッドウェイ。ミッドウェイ級空母は合計3隻が建造されている。(Photo:U.S. Navy)

USSミッドウェイ CV-71

USSミッドウェイは2次大戦後の1945年9月に就役したミッドウェイ級航空母艦のネームシップで、近代改修を受けてベトナム戦争に参加した。70~80年代には横須賀を母港とし、その後湾岸戦争に参加して92年に退役。97年に除籍され、2004年から博物館として公開されている。(撮影協力:中田商店)



ミサイル巡洋艦USSヴェラ・ガルフ。同艦はイージス巡洋艦タイコンデロガ級の1隻で、スプルーアンス級駆逐艦を元に開発され、艦種分類によって巡洋艦となった。タイコンデロガ級は計7隻が建造されている。(Photo:U.S. Navy)

USSヴェラ・ガルフ CG-72

USSヴェラ・ガルフはタイコンデロガ級ミサイル巡洋艦の26番艦で、1993年に就役。艦名は太平洋戦争中のヴェラ湾夜戦(43年8月6日。米軍呼称:ヴェラ沖海戦)に由来している。ヴェラ・ガルフは2022年に退役した。(撮影協力:サムズミリタリ屋/米海軍部隊章 ミサイル巡洋艦ベラガルフ/価格550円)



駆逐艦 DESTROYER

駆逐艦は主力艦を護衛する高速戦闘艦の艦種で、第2次大戦では水雷(魚雷)攻撃や対潜水艦、偵察と哨戒など様々な任務に従事した。戦後は対空対潜能力の向上が図られ、アメリカ海軍は1958年から艦対空ミサイル(SAM)を搭載したチャールズF.アダムス級を建造。72年には海軍情報システムを搭載し、機関をガスタービン化したスプルーアンス級の建造を開始している。そして88年からトマホーク巡航ミサイルを搭載したアーレイ・バーク級を建造。2011年にはステルス性と強力な対地攻撃力を持つズムウォルト級の建造が開始されている。

USSファイブ DD-991

駆逐艦ファイブはスプルーアンス級駆逐艦の30番艦として1980年に就役。湾岸戦争(1991~92年)やメキシコ湾における麻薬対策作戦に従事。80年代後半から90年代にかけて横須賀を母港とした。2003年に退役し、05年に標的艦として沈没している。艦名はジェームス・ファイブJr.提督に由来。パッチに入っている“Successum Merere Conemur(ラテン語)”は艦のモットーで、「成功に値する努力」。(撮影協力:サムズミリタリ屋/米海軍部隊章 DD991 駆逐艦ファイブ/価格550円)



‘90年代「未来先取り」と言われた デザイン&スタイルに「PLUSシステム」が 搭載され時代が追い付く!

「P-90+」、[PATORIOT+] に続く「スタンダード電動ガン+ (プラス) シリーズ」第3弾として東京マルイが投入するのは「G36C PLUS+」!
①各所の異常を自動的に察知し作動をストップさせる高い安全機構。
②モーターブレーキ搭載によるトリガーレスポンス (セミオート) の向上。
③バッテリー動作チェック機構 (異常電圧検知、温度検知、オートカットオフ)。
④スイッチ焼け、セミロックの発生率低下。

⑤「強化型ピストン」と「メッキコーティングセクターギア」でメカBOXもハイレスポンス化に対応。

以上が電動ガンとしてのパフォーマンスを最適化&最大化する「PLUSシステム」の効果&効能だが、これらに加え新規制作の「KACタイプフロント&リアサイト」でイメージも一新! じつに3度目 (※電動ガンBOYSやライトプロも含めれば5度目!) のモデルアップとなる人気機種=G36Cの鮮度を落とさず飽きさせないエクステリアの工夫も万全の構えだ。

これまでのPLUS+シリーズ同等、特にMS・Li-Poバッテリー使用時のハイレスポンスには目を見張るものがある。セミオートのキレ、フルオートの快適なドライブ感!

1990年代に実銃G36が発表された当時、「未来を先取り!」と世界の人々を驚愕させたデザイン性に、やっと時代が追い付いたのか……。そんな感慨すら抱かせるこの完成度を是非読者諸兄にもフィールドで、レンジで、1日も早く体感してほしい!

新世代型ハイキャパ=D.O.Rに、 特殊カラーリングを施した “白いNewタイプ”登場!

東京マルイの超ベストセラー、ハイキャパ・シリーズに、これまた発売以来バカ売れの純正オプション「マイクロプロサイト」を無加工で装着可能なモデルが「D.O.R (=ダイレクト・オプティクス・レディ)」だ。

大胆に攻めたデザインのスライドにマイクロプロサイトを「限界まで低く」マウント可能。内部メカも最新世代の改修を経ており、ブローバック作動性能がさらに向上している他、スライド内部に金属製のノッチ・スパーサーが内蔵されホールドオープンとリリースを繰り返してもノッチが欠けたりせず、またトリガールも箱出しノーマルとは思えないほどに軽くスムーズに! 聞けば通常のハイキャパD.O.Rモデルから、シアーにメッキをかけているとの事。この辺りの抜かりない仕事はさすがは東京マルイだ。さらにマイクロプロサイト装着を前提とした各部操作性のリファインなど、全面的にアップグレードを施したモデルとなっており、ユーザーからも好評を得ている。

そんな「新世代型のハイキャパ」=D.O.Rに、特殊カラーリングを施したファッショナブルなNewモデル、「ホワイトD.O.R」が加わる。

東京マルイには次世代電動ガンAKシリーズをベースにした「ホワイトストーム」が予想以上の大成功! という前例があるため、このホワイトD.O.Rも2023年11月11日~12日に開催された「東京マルイ・フェスティバル2023」では大きな話題となっていた。



〈オプションパーツ〉
●マイクロプロサイト ホワイト 7,480円

〈オプションパーツ〉
●MTD (マレイタクティカルドットサイト) 21,780円
●バーティカルフォアグリップ 3,630円
(※付属のラバースリーブを取り外した状態)



月刊

THE GREEN BERET SPECIAL FORCES CIF COMPANIES Part 4 特殊部隊CIF中隊特集パート4



vol.55

文・イラスト/DJちゅう
写真/U.S.ARMY

随分間が空いてしまいましたが「月刊グリーンベレー」ファンの皆様お待たせいたしました！ CIF特集第4弾です。今回はCIFの歴史を紐解く上で欠かすことのできない対テロ部隊、ブルーライトに迫りましたね。僅か1年ほどしか活動期間がな

かったブルーライトですが、のちのCIFの礎を築きます。さて、今回は1978年にブルーライトが解散し、1990年にCIFが誕生するまでの空白の間に迫り来る国際テロリストへの脅威に立ち向かった、とある部隊に注目して解説いたします。



参考文献

jackmurphywrites.com [SPECIAL FORCES TO DISBAND THE COMMANDERS-IN EXTREMIS-FORCE (CIF)] HIGHSIDE [Revenge on the CIF - How "The Haters" Cut Special Forces' Last Link To JSOC], SOFREP [Blue Light (Part 1~9) : From the Special Forces, America's first counterterrorism unit], Special Forces Association Chapter 78 [Detachment (A) Berlin Special Forces 1956-1984 A Thumbnail Look at Detachment (A) Berlin Brigade], COFFEE OR DIE [DETACHMENT-A: HOW SPECIAL FORCES SOLDIERS OPERATED UNDERCOVER IN COLD WAR BERLIN], DETACHMENT-A.org, WE ARE THE MIGHTY [This top secret Green Beret unit quietly won the Cold War], THE Fayetteville Observer [Clandestine Cold War unit honored at Fort Bragg]





05JX

令和5年度 自衛隊統合演習【後編】

去る2023年11月10日から20日にかけて行われた「令和5年度自衛隊統合演習JX (Joint exercise)」。
これは、陸海空自衛隊による統合運用能力の維持・向上を図ることを目的としている。
前回に引き続き、今回もこの巨大演習をお伝えする。

巨大演習、いよいよクライマックスへ

05JXは、陸上総隊司令官をトップとした統合任務部隊の下に陸上/海上/航空構成部隊が編成され、訓練が繰り返されていった。南西島嶼部を守る陸上構成部隊は西部方面総監が指揮し、徳之島を守ったのが第8師団を主とした部隊となった（詳細は先月号参照）。

そして、洋上を護衛艦等からなる海上構成部隊が、領空を戦闘機等航空機からなる航空構成部隊が守った。具体的にはこれら海空部隊によって、四国沖等にて統合対艦攻撃訓練や統

合防空ミサイル訓練が実施された。こうして期間中に数々の演習が繰り返されていった。クライマックスとなったのが「海空作戦と連携した統合強襲侵入作戦」だ。英語表記の「Joint Forcible Entry Operation」を略し「JFEO」と呼んだ。そして、この「JFEO」の舞台となったのが徳之島であり、この水陸両用戦を展開したのは、先述の陸海空構成部隊に加え、掃海隊群司令をトップとした水陸両用統合任務部隊と特殊作戦群長をトップとした特殊

作戦任務隊だった。それぞれの中核となる水陸機動団、第1空挺団、特殊作戦群等が徳之島へと着上陸していった。

ただし、この最大の見せ場を前にして、徳之島の天候は悪化した。水陸機動団によるもとの着上陸演習は、11月17日に予定されていたが、天候不良のため19日へと改められた。しかしながら、偵察部隊等は、予定通り15日から順次CRRC（偵察ポート）やV-22で上陸を果たしている。夜間のCRRCやAAV7による上陸も

行なわれた。この中には特殊作戦群も含まれていた。

海と空からの強襲作戦

かくして11月19日午前9時頃より、徳之島の花徳浜において、着上陸訓練が行なわれた。

水陸両用統合任務部隊の輸送艦「おすすみ」「しもきた」が、花徳浜の沖に展開する。そこより5輛のAAV7が発進。上陸地点を目指した。ここは、これまでJXやアイアンフイストといった演習で使われている



5輛のAAV7により花徳浜へと上陸を果たした水陸機動団。上陸後は速やかに警戒態勢をとる。手にしているのは最新の20式小銃だ。なお、水陸機動団では、今年3個目の連隊が新編し、さらに部隊は拡大改編される。